



紫雲児の心

2学期:《個性伸長期》

学校行事に意欲的に参加し、充実させよう。

自分の将来や進路を考え、学習への取組を改善し、個性を伸ばそう。

～できない理由を並べるのではなく、

できる方法を考えよう～

(12月の全校朝会講話から抜粋)

校長 中村 聡

■できない理由を並べるのではなく、できる方法を考えよう！

人は難しい課題や本当はあまりやりたくないこと、できれば避けたいことに直面したとき、無意識に「できない理由」を探します。でも、たぶん、考えれば、できる方法はある。創立70周年記念講演会の講師；鬼嶋大之さんは、どんな困難な時でも、諦めず、ポジティブに考えて行動されていましたが、同じ考え方の方の話をたまたま先月聞きました。プロスキーヤー、登山家の三浦豪太さん。ご自分の経験とともにお父さんの三浦雄一郎さん（プロスキーヤー、登山家）のこともお話しされました。（新発田商業高校の創立100周年記念式典での講演）

お父さん、三浦雄一郎さんは80歳で世界最高峰のエベレスト（標高8,850m）に登頂した方です。これだけ聞くと、「すごい人だな」で終わるんですが、それを成功させた考え方と努力があるんです。エベレスト登頂は3回。しかも、最初が70歳、次が75歳、そして80歳。きっかけは65歳の時に体重増加、高血圧などで余命3年の宣告。そこで奮起。5年後にエベレスト登頂の目標を立て、トレーニング開始し、見事登頂。その後も5年ごとにエベレスト登頂の目標を立てたんですが、心臓の不整脈という病気が発症し、医者からは「登山したら死ぬ」と言われ、許可が下りなかったそうです。医者にそこまで言われたら諦めるのが普通だと思うのですが、雄一郎さんは息子の豪太さんに「エベレストに登っても大丈夫だという医者を探せ」と指示。豪太さんは、「そんなムチャクチャな！」と思いながら仕方なくいくつもの病院を探すと何人かいたそうです。「手術をすることによって可能かもしれない」という選択肢を提示してくれたそうです。そこで、何回も手術をし、克服し、エベレスト登頂。

『できない理由は山ほどあっても、諦めず、できる方法を考える』

息子の豪太さんも同じ考え方でピンチを乗り切った経験を話してくれました。スキー選手としてリレハンメル冬季オリンピックの日本代表選考会の直前に足首を痛め、パンパンに膨れあがりスキー靴も入らない状態になったそうです。親に試合に出られないことを伝えようと電話すると、父の雄一郎さんが「折れていないんだろ、じゃ、なんとかなるだろう」と無茶な助言。豪太さん、やけになり、腫れ上がった足がスキー靴に入るように、スキー靴の一部をのこぎりで切って、足を入れ、テープでぐるぐる巻きにして試合に出たそうです。力も入らないので、ムリをせず、とにかく転ばずにゴールすることだけを考えたそうです。その結果、他の選手が途中で転んだり、コースアウトをしたりしたため、タイムは遅くてもゴールできた豪太さんがオリンピック代表になったそうです。何が起こるかわからない。とにかく諦めず、できる方法を考えた結果です。

紹介した例は特別な状況での話ですが、この考え方はどんな場合にも当てはめることができると思います。『できない理由を並べるのではなく、できる方法を考えよう！』

2学期を振り返って ～終業式で各学年の代表が発表しました。～

1年1組 小林 治太さん 「2学期がんばったことと、冬休みのめあて」

2学期がんばったことは、2つあります。

1つ目は総合学習の紫雲寺再発見で地域について詳しく学んだことです。特に印象に残ったことは、紫雲寺には、沢山の歴史があったということです。この学習をするまではあまりこの地の歴史について知りませんでした。実際に地域を回ることによって、地域の歴史を知ることが出来ました。また、班で行ったやきそば作りでは、班のみんなと協力して作ることができ、よかったです。2つ目は、体育祭です。自分は、選抜リレーに選ばれました。そのため、自分の走りができるように準備しました。本番では、一生懸命走れたのでよかったです。自分自身初めての体育祭だったので、緊張しましたが練習通りに競技、応援も出来たのでよかったです。

冬休みのめあても2つあります。1つ目は、冬休み期間の学習をしっかりとやることです。第2回と第3回のテストでは、どちらも納得のいく点数ではなかったので冬休みの学習をしっかりとやって、次の定期テストに備えたいです。2つ目は、部活を、しっかりとやることです。大切にしていきたいと思うことはトレーニングです。なぜなら、トレーニングを大切にしているか、していないかで、シーズンになったときに差が出てしまうからです。だから休みの間のトレーニングは、しっかりと春レギュラーとして活躍したいです。

2年1組 渡邊 慎之介さん 「2学期の反省と3学期がんばりたいこと」

自分が2学期頑張ったことは2つあります。

1つは、体育祭の応援リーダーです。夏休み中に学校に来て「ダンスや応援」の練習をしました。応援リーダーとして、皆の手本になるように頑張りました。力いっぱい全力で頑張って、楽しかったです。

2つめは、合唱コンクールのパートリーダーです。ぼくは、この仕事が初めてで、最初は不安がありました。でも、クラスの皆と協力して練習していくうちに自信ができました。クラス練習では、皆でアドバイスをしながら良いところ、悪いところが分かり、なおしていきました。そして、本番では金賞をとることができました。とてもうれしかったです。自分は、この2つのリーダーを体験して良かったことは、行事を楽しめることです。リーダーとして皆より頑張る、苦勞する分、やりきった後はとても楽しいです。だから、リーダーをやって良かったと感じました。

3学期頑張りたいことは定期テストです。3学期のテストは、1年間で最後のテストなので、高得点をとれるように冬休みのうちから勉強していきたいです。

3年2組 羽田 陸さん 「今学期のふりかえり」

もうすぐ1年が終わります。それぞれの学年が次のステップを踏むため、各々が自覚を持ち、頑張っているだろうと思います。

今学期は、僕にとって勉強、部活ともにいそしんでいた学期だったと思います。勉強に対しては、8月から、1ヶ月ごとに単元別テストがあり、10月からは実力テストになり、一段と問題が難しくなりました。僕は毎日、家で勉強することが苦手で日々の勉強を疎かにしていたので、結果単元テストでは満足する点が取れず、実力テストに関しては、大幅に得点を下げてしまいました。そこで僕は、受験生だということ、そして学年の人と少しずつ差がでていることを改めて実感しました。そこからなんとか粘り、今は毎日勉強することを習慣づけ、勉強するという行為がさほど苦ではなくなりました。来年、受験生の2年生は、気をつけたほうが良いと思います。

部活動に関しては、8月のジュニアオリンピック予選会で北原博企さんとともに1位をとって、10月末のジュニアオリンピックに向けて毎日遅くまで練習を精一杯頑張ってきました。僕達2人のために陸上部顧問、遠藤先生や、同じく陸上部顧問富樫先生、外部からの講師の方々にも大変お世話になりました。特に遠藤先生には、1年生のときからお世話になり、時に厳しく、時に厳しく、時に厳しくしていただいたおかげで、2年生のころから県の合同合宿などに参加でき、3年生のころには、県大会2位や、先程言ったようにジュニアオリンピックという全国大会出場もできました。本当に感謝しています。この3年間の部活動生活、最高の先生方に指導していただき、最高の仲間に出会い、充実した部活動生活を送れたと思います。部長としても、羽田陸個人としても本当に感謝しています。ありがとうございました。

さらに今学期は、色々な行事がありました。9月の体育祭では、7月から、時間をやりくりしながら応援練習に取り組み、本番では、3年生が両軍ともに見事なリーダーシップで活躍も多く、まさに切磋琢磨しあい、この学校の3年生としてさらに成長できた体育祭だったと思います。また合唱コンクールでは、互いに意見をぶつけ合いながらみんながとても熱心に練習していました。大変だったけれど、リーダーを中心に、みんなと歌うことがとても楽しかったです。僕は当日いなかったのですが本番では、3-1、3-2ともに最優秀賞を獲得するというとても珍しいことが起きました。僕はこんな「3年生」の一員であることが本当に嬉しいです。あと10数週間で僕達3年生は卒業です。受験生として勉強を頑張りながら、悔いの残らない中学校生活を送って行きましょう。以上です。